

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）中間評価結果

大 学 名	名古屋大学
整理番号	B-4
事 業 名	ASEAN と日本を繋ぐ「グローバル・ソフトインフラ基礎人材」育成プログラム

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント)	<p>本プログラムは、アジアのハブ大学を目指して研究・教育に力を注いできた名古屋大学のこれまでの実績に基づき、グローバル・ソフトインフラ基礎人材の育成を目標とする教育コンソーシアムを相手大学6校と形成し、段階的に教育内容を高度化することを前提に、受入・派遣、さらに正規生としての入学も含め、実務及び現場を重視する体験型教育を実施している。</p> <p>学生交流においては、事業計画を上回る規模での派遣・受入が推進されている。また、学生や教員に対するアンケートにより事業の実施効果を把握し、プログラムの改善に努めている点や、留学における危機管理や日常生活に関して派遣・受入学生にきめ細かく対応している点も評価できる。また、これまでの実績や総合研究大学としての強みを活かした教育の質保証では、単位相互認定の合意形成やプログラムの参加証明書の発行、UCTS（アジア太平洋諸国間での単位互換方式）を併記した成績評価書の作成など様々な工夫が見られ、受入学生に対する選択科目の豊かさにも特筆すべきものがある。これらは地域企業のニーズにも適合していることから、今後実業界との更なる連携が期待できる。</p> <p>一方で、グローバル・ソフトインフラ基礎人材の育成に関する方向性が明確になっていないことから、引き続き全学的なプログラムとして運営することに留意し、グローバル・ソフトインフラ基礎人材育成のための統一感のある教育プログラムとして展開していくことが望まれる。また、学生交流のほぼ全てが短期派遣・受入であることから、事業計画に沿った中長期の交流活動の実施が望まれる。</p> <p>最後に、今後も補助期間終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と将来の我が国の更なる発展に向け、積極的に事業を展開していくことが期待される。</p>